

利根・沼田の教育

発行所 利根教育事務所
 発行人 角田 義行
 〒378-0031 沼田市薄根町 4412 番地
 TEL 0278-23-0165 FAX 0278-23-0180
 E-mail: tonekyou@pref.gunma.lg.jp

児童生徒が「～する」授業への転換とは・・・

～エージェンシーを発揮し「自律した学習者」を育成する授業改善～

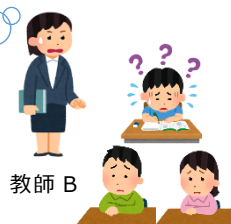
群馬県教育ビジョン（第4期教育振興基本計画）が示され、エージェンシーを発揮し「自律した学習者」を育成するために、各学校では、学校の重点課題や児童生徒の実態等を踏まえながら、日々の授業改善に取り組んでいただいています。そのような中、教師が「～させる」授業から児童生徒が「～する」授業への転換が難しく、以下のような疑問や不安を抱えている先生方も多いのではないのでしょうか。



教師 A

子どもたちに関心を高められるように、かなり準備して授業をしているつもりですが、なかなか子どもたちがのってきけません。

⇒先生が授業で全面に出て、子どもが受け身になっていませんか？



教師 B

子どもたちを信じて、任せることが大事なのは分かりますが、学力の定着が心配で任せきることができていません。

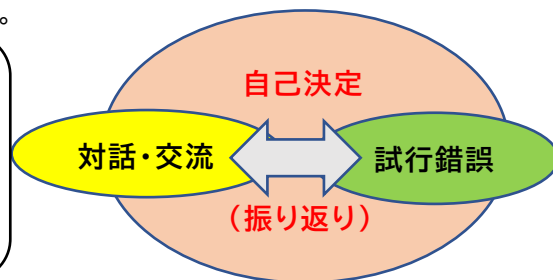
⇒子どものもっている力を、もっと信じて、子ども自身に決めさせてみませんか？

そこで、利根教育事務所では、各学校で実施した学校訪問Aを振り返り、授業で「自分が決めた」と実感できるようにするために、学習過程のどこで、どのように子どもたちに働きかけるとよいか、以下のようなイメージ図とそのポイントを作成しましたので、参考にしてほしいと思います。

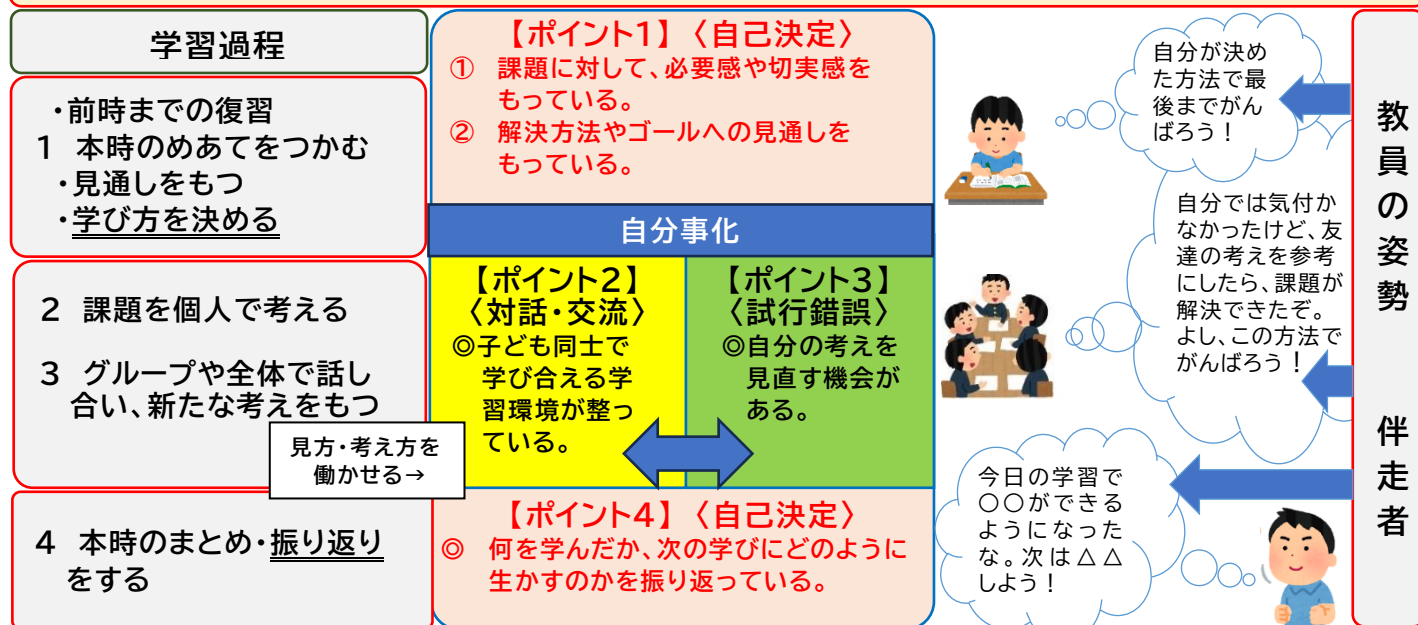


指導主事

県教委のリーフレットでは、子どもたちがエージェンシーを発揮できるように、「自己決定」「対話・交流」「試行錯誤」の3つの場面を意図的に取り入れることを推奨しています。管内の実態から、特に「自己決定」に焦点を当てたときのポイントを示しました。子どもたちの活動をチェックしてみましょう。



主体的・対話的で深い学び(能動的で他者と協働した学び)



指導主事

子どもの思考の流れに沿って、必要な場面に「対話・交流」「試行錯誤」を取り入れると、自分で考え、自分で決めて能動的に学ぶ姿が見られますね。

児童生徒に任せられる場面が増えてきたら、単元内の「自由進度学習」にも挑戦してみたいかがででしょうか。

所長



次なる一手

地域とともにある学校づくりに向けた連携・協働

～地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的推進～

利根沼田管内では、ここ数年で学校運営協議会の設置が急速に進み、多くの学校がコミュニティ・スクールとなりました。また、地域学校協働活動についても「利根・沼田の教育」第51号で、充実するための方向性として「総合的な学習の時間」や「特別活動」において、児童生徒の『社会参画』を意識した取組を紹介したところ、社会教育主事の学校訪問では、その様子を多く見させてもらっています。そこで、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールを一体的に推進するために、今後の在り方について考えていただけたらと思います。



<校長>

コミュニティ・スクールになったので、地域との連携が活発になると思ったのですが…。

学校のお手伝いを長年やっていますが、今後も同じような関わりでいいのでしょうか？



<地域協力者>

体制は整ってきましたが、課題も聞こえてきています。そこで、学校訪問で見えてきた課題を踏まえ【具体的な方策】と【一体的推進のためのポイント】をご紹介します。



<社会教育主事>

コミュニティ・スクール

地域学校協働活動

【課題】

- ①「形式的な承認」と「参観授業の感想」が多いと思う。
- ②「熟議」はするが、その後、どうすればいいのかわからない。
- ③教職員全員の理解がなかなか進んでいない。

【課題】

- ①活動は増えているが、成果につながっているか不安である。
- ②前例踏襲の「支援活動」だけに感じてしまう。
- ③学校と地域それぞれが負担に感じている活動もある。

【具体的な方策】

- ①子どもや学校の課題及び未来の姿について協議する。
- ②多様な意見を、教育課程や学校運営へ反映する。
- ③管理職だけでなく全教職員で共有する機会をつくる。

【具体的な方策】

- ①ねらいや期待される効果及び成果を共有する。
- ②地域づくりの視点をもった活動を計画し実施する。
- ③活動を見直して改善し、学校と地域の役割分担を整理する。

【実践例】

白沢小中学校運営協議会では、小中学校の教職員と地域住民が集まり「育てたい子ども像」について「熟議」を行いました。子どもや学校に関わる課題について、関係者全員で思いを共有する機会となりました。



地域学校協働活動推進員

【実践例】

水上小学校では、計画段階から地域の人と相談し、地域の「ひと・もの・こと」を取り入れた探究的な学習を系統的に行っています。地域とのつながりが生まれたことで、地域活動の活性化にもつながっています。



【一体的推進のためのポイント】

①「体制整備」

- ・保護者、地域住民、教職員、児童・生徒等の多様な意見を吸い上げ、教育課程や学校運営へ反映しましょう。
- ・学校と地域で子どもや学校の課題について協議し、学校の教育目標や目指す子ども像について共有しましょう。
- ・地域学校協働活動推進員を委嘱し、活躍する場面をつくりましょう。

②「教育目標や目指す児童生徒像を共有した上での地域学校協働活動」

- ・教育目標やビジョンに基づいた「学校教育の充実・改善」と「社会教育や地域活動の充実・改善」を協議しましょう。
- ・実践後の振り返りにより、成果や課題について学校と地域とで共有しましょう。

③「社会に開かれた教育課程の開発」

- ・教育目標を達成するための「魅力的な教育計画や授業」を地域の特色を生かしながら開発しましょう。
- ・成果の評価・改善についての「熟議」を学校と地域とで実施しましょう。

CSの運営状態やCSの成果を可視化するためのツールとして「CSポートフォリオ」が文科省のWebページ上で公開されています。



<CSポートフォリオ>



<チェックシート>

客観的な指標やデータに基づいて、学校と地域で「対話」を行うことで、次なる一手が考えられます。利根教育事務所の「充実した地域学校協働活動のためのチェックシート」と併せて、活用してはいかがでしょうか。



<社会教育主事>

「群馬県教育ビジョン」でも以下の視点が示されています。

視点① 大人も、子どもも社会的な“一人の主体”

視点② 学校で、家庭で、地域で…自ら学び育つ、共に学び育つ

これらの視点を持って、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールを一体的に推進し、ひとりひとりがエージェンシーを発揮し、自ら学びをつくり、行動し続ける『自律した学習者』を目指していきましょう。